

医師勤務時間短縮計画（記載例）

令和〇年〇月〇日

基礎情報

- 1 医療機関名称：××厚労病院
- 2 管理者名：医政 太郎
- 3 開設者名：
- 4 所在地：××県××市××
- 5 病床数：500 床
- 6 診療科：眼科、内科、心療内科、外科、整形外科、耳鼻科
- 7 病床の種類（高度急性期 床 / 急性期 床 / 回復期 床 / 慢性期 床）
- 8 常勤医師数：20 人
- 9 常勤以外の医師数：30 人

計画期間と推進体制

- 1 計画期間：令和〇年〇月～〇月
- 2 推進体制
 - (1) 病院管理者による改革の宣言と周知
年 月 日実施
 - (2) この計画の担当者
進捗管理者（役職 氏名） 原則病院管理者
事務担当者（役職 氏名）
- 3 進捗管理するための体制
別紙推進体制整備シート

現状分析と目標

- 1 時間外勤務の状況と目標
 - (1) 現状
 - ア 本計画の対象診療科、対象医師（年間の時間外・休日労働時間が 960 時間超の医師）
記載例：〇〇科 9 人（うち常勤 9 人）
科 2 人
 - イ（任意）時間外要因ヒアリング結果
対象医師について、時間外の要因をヒアリングした結果を記載
記載例： 科

〇〇医師 診療科の医師が少なく、緊急時に対応せざるを得ない
 医師 宿直が多いため、時間外削減の余地がない

(2) 目標と行動計画

ア 〇〇科

主に（手術や外来対応の延長、記録・報告書作成や書類の整理、会議・勉強会・研修会等への参加、他職種での対応可能業務）等に係る時間を削減することで目標を達成する。

労働時間短縮に向けた対応として、主に、（緊急でない患者については勤務時間内に病状説明等を行う、複数主治医制導入、当直明けの勤務負担緩和（連続勤務時間制限）、勤務間インターバル設定、完全休日の設定、タスクシフティング）等に取り組む。

目標

医師ごとに、昨年度実績、過去 3 ヶ月間実績、当年度目標、計画期間終了年度目標の時間外労働について記載

	前年度 実績	直近 3 か月の実績			当年度 の目標	計画期間 終了年度 の目標
		月	月	月		
平均						
最長						
960～1860 時間 の人数・割合						
1860 時間超の 人数・割合						

行動計画

「現状診断対策立案シート」「アクションプランシート」「PDCA 運営シート」を活用して、行動計画を記載

○（例）会議時間の短縮

〇〇機器の導入による業務効率化

看護師の特定行為によるタスクシフティング

前年度の取組 内容	

当年度の取組内容	
計画期間中の取組内容	

(参考)対策例

【タスクシフティング(業務の移管)】

- ・特定行為看護師 人 / 医師事務作業補助者 人を活用し、業務を特定行為看護師に、業務を医師事務作業補助者に移管しタスク・シフトを推進する。
- ・医師事務作業補助者を、医師の隣席に配置することで、カルテ等の入力業務や各種日程調整等業務を行う。
開始・導入・強化等の時期をアクションプランシートに記載し、PDCA 運営シートにより進捗管理を行う。

【女性医師等の支援】

- ・遠隔診療機器を導入し、医師の在宅勤務を可能とすることにより、在院して勤務する医師の負担軽減、労働時間削減を図る。
- ・院内保育所 / 病後児保育を開始し、女性医師の獲得(離職防止・継続雇用)を図ることにより、医師の一人あたりの労働時間の削減を図る。
(その際、保育対象範囲を小学校 3 年生まで引き上げを検討)

【診療科の状況に応じた医師の労働時間削減に向けた取組】

- ・特に労働時間の高い医師 ○ について、該当する医師の外来時間の削減の取組を行い、労働時間の 時間程度の削減を図る。
- ・対象医師全員について、会議の効率化(メンバーの限定、会議時間の上限設定等)を行う。
- ・ 機器の導入を図り、×××の効率化を図る。
- ・複数主治医制を導入することで当直以外での出勤を減らす。
- ・連続勤務時間の上限を設定して勤務割りを作成
- ・勤務間インターバル時間を設定して勤務割りを作成
- ・地域の診療所への紹介を推進する(患者を地域へ帰す)ことで、平均在院日数を減らす。
- ・2次救急について輪番制を導入する。(導入を目指し、地域の医療機関との意見交換を開始する)
- ・患者サポート窓口の設置により、患者から医師への問い合わせを減らし、医師の労働時間削減を図る。

- ・患者の問診、患者・家族への説明を、タブレット等を活用し、事前に医師事務作業補助者が医師の確認の上、説明資料等を準備等行う。

(2) 科

2 労働時間管理の状況と目標

(1) 労働時間管理方法

- ・労働時間を客観的に把握し管理しているか

例 ○○年 月から、ICカードの導入等により労働時間を把握している。

ビーコンを活用した自己研鑽時間把握方法の検討（実施）

医師の自己申告による副業・兼業先の把握の徹底

副業・兼業の自己申告に加え、研鑽時間等を記載した について、上司の確認により適正化を図っている。

前年度の取組内容	
当年度の取組目標	
計画期間中の取組内容	

(2) 宿日直許可基準に沿った運用

- ・許可のある当直・日直と宿日直許可のない当直・日直を区分して管理しているか。

ア 宿日直許可のある当直・日直（○○科 年 月 日宿日直許可）

例 宿日直時の時間外勤務は○○により把握している。

前年度の取組内容	
当年度の取組目標	
計画期間中の取組内容	

イ 宿日直許可のない当直・日直

例 許可申請未提出のため、労働基準監督署に許可申請を行う。

宿日直時の勤務を、時間外勤務として扱っている。

前年度の取組内容	
当年度の取組目標	
計画期間中の取組内容	

(3) 医師の研鑽の労働時間該当性を明確化するための手続き等

例 厚生労働省「医師の働き方改革に関する検討会」のとりまとめを踏まえたガイドラインの内容に即して、 年 月 日に考え方を書面等で明示し、取組を徹底している。 行っていない場合は、実施目標年月日を記載

前年度の取組内容	
当年度の取組目標	
計画期間中の取組内容	

(4) 労使の話し合い、36協定の締結

例 36協定を締結しており、(毎月 日に/月 回等)時間外労働時間の実績を確認している。 行っていない場合は、実施目標年月日を記載
36協定で定める時間外労働時間を超えることが予想される場合は、状況に応じて(等の)対応を行っている。 行っていない場合は、実施目標年月日を記載
労使間の協議の場を設け、(毎月 日に/月 回等)に協議の場を開催している。 行っていない場合は、実施目標年月日を記載
労働条件通知書により、労働条件を明示している。 行っていない場合は、実施目標年月日を記載

前年度の取組内容	
当年度の取組目標	
計画期間中の取組内容	

(5) 産業保健の仕組みの活用

例 長時間労働となっている医師、診療科等ごとに対応を議論し、(時間外勤務短縮の方策/産業医の面談結果 等)を(衛生委員会/ 等)に報告している。 行っていない場合は、実施目標年月日を記載
〇〇を超える時間外勤務をした医師については、健康診断、面談の実施を義務付けている。

前年度の取組内容	
当年度の取組目標	
計画期間中の取組内容	

3 意識改革・啓発

次の項目について、最低一つの取組について実績と目標を記載

- ・管理者マネジメント研修
- ・働き方改革に関する医師の意識改革

例 働き方改革に関して(〇〇委員会、〇〇担当者)が医師の意見を聞く場を設け、 により医師に対して周知している

- ・医療を受ける者やその家族等への医師の働き方改革に関する説明

例 医師の働き方改革を進めていることや患者やその家族に理解を求める旨を掲示

している。

取組実績	
取組目標	

4 策定プロセス

計画は、各職種が参加する委員会等で検討し策定されたものであるか、医師にきちんと説明されているか等を記載

(任意記載事項) 5～7それぞれにおいて、最低一つの取組の実績と目標を記載

5 タスク・シフト/シェア

- ・ 職種に関わりなく推進するもの
- ・ 職種ごとに推進するもの

助産師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学士、医師事務作業補助者毎に実施するもの

取組実績	
取組目標	

6 医師業務の見直し

- ・ 外来業務の見直し
- ・ 日当直の体制や分担の見直し
- ・ 日当直の業務の見直し
- ・ オンコール体制の見直し
- ・ 主治医制の見直し
- ・ 副業・兼業先の労働時間も踏まえた勤務シフトの管理

取組実績	
取組目標	

7 その他の勤務環境改善

- ・ ICTその他の設備投資（音声入力システムの導入等）
- ・ 出産・子育て・介護など、仕事と家庭の両立支援
- ・ 更なるチーム医療の促進（介護、福祉の関係職種との連携等）

取組実績	
取組目標	

8 副業・兼業を行う医師の労働時間の管理

- ・ 副業・兼業先の労働時間も踏まえた勤務シフトの管理（再掲）

- ・副業・兼業先との勤務シフトの調整
- ・副業・兼業先への医師労働時間短縮への協力要請

取組実績	
取組目標	